

## 目 次

図書館と私 .....1  
寄贈図書一覧（平成 30 年 7 月～12 月） .....4

アーカイブ・コア新設について .....5  
お知らせ .....8

## 図書館と私

大西 健夫



### 「今西錦司コーナー」との出会い

岐阜大学の教員に着任して間もなくして、岐阜大学の図書館には、今西錦司のコーナーがあることを知りました。さっそく訪れてみると、ちょっとした書斎のような設(しつらい)に今西錦司が生前に所蔵した書物が展示されており、なかなかよい雰囲気だなと思った記憶があります。この今西錦司コーナーとの出会いは特別なものでした。私が研究をする学問分野は、水文学（すいもんがく）と言って、地球上の水や物質の循環の有様を研究する分野のため、直接には

進化論に関わる研究分野ではありません。ではなぜ私にとって意味があったのかというと、大学生のころ、生物の進化論に格別の興味を抱き、進化論に関わる様々な本を、勝手に読み漁った時期がありました。今西錦司は、ダーウィンが提唱した進化論に対抗して独自の進化論を打ち立てようとしており、その学問的内容の真偽はともかく、西洋のサル真似が多いと揶揄されることの多かった当時の日本の学問状況の中にあつて、正面からオリジナリティーを出そうとして格闘しているその姿勢にすっかり心酔していました。その中で、ふと、大学の図書館で読ん

だ新聞で、今西錦司が生前住んだ上賀茂の自宅庭にある樹木が伐採の憂き目にあるということを知ったのでした。矢も盾もたまず、新聞に投稿記事を書き、それがそのまま掲載されたのでした。人生初の公的な場での意見表明の試みが、ひょんなことで実現してしまったのでした。新聞記事との出会いも母校の図書館だったというのも面白いですが、所変わって、岐阜大学の図書館で再び今西錦司に出会えたことには、何か縁のようなものを感じています。

### 安芸皎一と図書館の所蔵スペース

私自身の学問上の転機にも、岐阜大学の図書館は関わってくれています。安芸皎一という河川の土砂輸送の大学者があり、安芸が著した『河相論』（1951、岩波書店）という書籍があります。人の手に手相があるように、川にも相があるということの学問的探究の書です。学生時代にこの本の存在は知っていましたが、実際に原典に当たったことはありませんでした。自分自身の研究は、先ほど少し触れたように水の大きな動きに関わることであるため、当然、河川がどのようにして形成され変化していくのか、ということも大きな研究対象にならなければなりません。しかし、技術的にも、思考の枠組みとしても、なかなかこのようなことは実現が難しいのが正直なところでした。しかし、環境研究におけるデータの蓄積と、パソコンのデータ処理能力の飛躍的な向上とが相まって、今こそ「比較河川学」、あるいは、「比較流域学」といった研究をするべきだと思い、すこしずつそのような研究に着手しています。そのようなきっかけを与えてくれたのは、共同で研究を進めている別分野の研究者の方や、私の父との雑談の中からだったのですが、そのときに、ふと『河相論』のことを思い出して、原典にあたっ

てみようと思ったのでした。所蔵を調べてみると、岐阜大学図書館の「集密」書架にあるということがわかりました。

図書館には「集密」書架の他に、「閉架」図書というものもあり、一時でも図書館にどっぷりと浸かったことのある人であれば、これらの言葉が想起させる独特の世界をご理解いただけるかもしれません。特に「開架」図書は、表の書庫に並べられ誰でもがアクセスできる図書館の蔵書であるのに対して、「閉架」の本が並んでいるのは、図書館によっては、図書館のスタッフしか入ることのできない特別な書庫です。所蔵されて以来、ひっそりとそこに存在しつづけた書籍たち、いつか誰かにその存在の価値を見出されて紐解かれるかもしれない書籍の並ぶ場所、まさに宝の山なのです。図書館が、長年の間に蓄積した知の集積であることを実感させる場所であると言ってもよいでしょう。また「集密」や「閉架」書庫には、十中八九、あの古本屋さんの匂い、古紙と埃とが混ざったような独特の匂いがあるのです。ですので、この独特の空間に入っていくこと自体に、図書館に行く楽しみの一つがあるといっても過言ではありません。少なくとも私にとっては。かくして、私は、岐阜大学図書館のこの空間の中で、安芸皎一の『河相論』にたどり着いたのでした。

### 原画展の開催スペース

図書館には、図書収蔵スペースばかりでなく、勉強のスペース、娯楽のスペース、調べ物のスペースなど、いろいろなスペースが複合的に集まっている点が、とても好きです。昨年、「地球を旅する水のはなし」（福音館書店、2017）という絵本を出版させていただく機会を得ました。私は、妻の龍澤彩とともに文章を担当し、絵は曾我市太郎さんという日本画家の方に描い

ていただいたのですが、この絵が本当に素晴らしい。当然、絵本にするときにも細心の注意を払って印刷物にするのですが、やはり、実物の絵には、絵本の絵にはない質感があります。またサイズも一回り原画は大きく、見応えがあります。そこで、この原画をぜひ多くの人に見てもらいたいと思い、原画展を図書館の一隅を利用して開催させていただきました。岐阜大学にはラーニングコモンズというスペースがあり、普段は勉強机がレイアウトされているのですが、よく見ると、壁に絵をかけるワイヤを取り付けるフックがついています。つまり、そもそも、このような展示をすることもできることを前提とした作りだったのです。ただ、絵を展示するときには、絵の部分だけを照らすためのスポットライトが必要になります。幸運にも、森脇久隆学長および当時の図書館長、福士秀人先生の計らいにより、幾分かの予算をつけていただくことができ、スポットライトを増設することができました。かくして、原画展を開催し、一週間という短い会期にしては多くの人に足を運んでいただくことができました。実は私がこのようなことを企画できたのも、原画展開催に先立って私と同じ課程に所属する楠田哲士先生による「ライチョウパネル展」があり、そういった図書館の活用方法もあるのかと思ったことも大きく効いています。これからも、図書館が、多様に利用されることを願ってやみません。

### 図書館の個性

図書館にも、個性があると思います。その個性を活かし伸ばしていくことができればなと思います。今では、情報のアーカイブ方法が激変しているため、単純な比較はできないかもしれませんが、少なくともかつては、古くはギリシャ時代より、図書館は知の殿堂であり、大学の

図書館の蔵書には、その大学の見識が現れるものだったと思います。時代の趨勢と大学全体の方針もありますので、事の良し悪しは、一概には結論づけられませんが、いつの時代も、世界の人類が日々続ける知的活動の成果である知へのアクセスは、決して一人でパソコンの画面上からだけでは成しえないのではないかと思います。その知に、生きた血を通わせるためには、何かしらの空間的な設(しつらい)と、そこに実際に知の交流が生まれることが必要なのだと思います。先日、シカゴ大学の図書館を訪問する機会がありました。訪れたのは夜8時ぐらだったのですが、利用者数の多さはもちろんのこと、館内のラウンジで学生たちがサンドイッチやコーヒー片手に語らったりする場所としても機能しており、驚くほど活気に溢れていたことに驚きました。岐阜大学の図書館も、そのような「場」として、いつまでも変化しつつ、発展していくことを願ってやみません。

(大西 健夫：応用生物科学部 准教授)

## 寄贈図書一覧（平成30年7月～12月）

平成30年7月～12月に図書館にご寄贈いただいた図書の中で、本学教職員が著作・編集・刊行等に関係した図書を掲載します。ご寄贈いただき、ありがとうございました。

### ●牧 秀樹（地域科学部）

- ・The minimal English test 研究：最小英語テスト / 牧秀樹著，開拓社，2018.10

【本館3階 830.79 | Mak】

～内容紹介～

16年ほどかけて、中学生、高校生、大学生の英語能力を簡易的に測定するテストを開発しました。実施時間が3分から5分程度であるため、最小英語テスト（The Minimal English Test = MET）と呼びます。

### ●橋本 操（教育学部）

- ・離島研究 6 / 平岡昭利編著，海青社，2018.10

【本館3階 291 | Rit】

～内容紹介～

離島シリーズはすでに6冊刊行され、日本の離島を中心に地理学的なアプローチにより、多様性をもつ島々の姿を明らかにしてきた。第VI巻に当たる本書は、「島のかたち」「島のなりわい」「島の暮らし」の3部からなり、離島の一般的な性格を描き、「産業」では表しづらい島の経済活動に焦点を当て、やさしくも厳しい島での暮らしについて論じた12編が収められている。本書を通して、離島の様々な一面を知ることができる良書である。

### ●安藤 香織（工学部）

- ・アルケンの合成：どのように立体制御するか / 安藤香織著；日本化学会編，共立出版，2018.10

【本館3階 437.2 | And】

～内容紹介～

アルケンは医薬品や機能材料に含まれる構造で、その立体選択的合成法の開発は有機化学における重要課題の一つです。本書では、よく用いられるカップリング反応とカルボニル化合物のオレフィン化反応を解説しました。

### ●山本 哲也（医学系研究科）

- ・緑内障診療テキスト：緑内障診療ガイドライン解説 / 山本哲也編集，南江堂，2018.10

【医学図書館3階 496.36 | Ryo】

～内容紹介～

本書は、日本緑内障学会が2018年に発行し緑内障診療のバイブルとされる「緑内障診療ガイドライン第4版」の内容を委員自身が解説した書籍である。最先端の緑内障診療を学びたい医学生、医師に絶好の書である。

### ●原山 美知子（工学部）

- ・インターネット工学. 初版3刷 / 原山美知子著，共立出版，2018.5

【図本館3階 547.48 | Har】

～内容紹介～

この本はIP通信を中心としたネットワークの入門書で、多数の図と文でインターネットの基本的なしくみやプロトコルをわかりやすく説明しています。工学部「コンピュータネットワーク」の教科書です。

### ●原山 美知子（工学部）

- ・Advanced コンピュータネットワーク / 原山美知子著，共立出版，2018.10

【図本館3階 547.48 | Har】

～内容紹介～

『インターネット工学』の続編でIPv6や暗号化通信など様々なネットワーク技術を紹介しています。図が多く各章にやさしい課題を掲載しており、興味深く学べると思います。自然科学研究科「情報ネットワーク特論」の教科書です。

※内容紹介は著者または编者本人による

## アーカイブ・コア新設について

平成 31 年 6 月、図書館本館 2 階にアーカイブ・コアが新設されます。アーカイブ・コアとは何か、教育学部理科教育講座 須山知香先生の研究室に図書館スタッフがお邪魔し、お話を伺いました。

—いま、岐阜大学全体を 1 つの博物館とみなしキャンパス内の各所に点在する歴史的・学術的資料を保管・活用するため「岐阜大学 学術アーカイブズ」が整備されつつあると伺っています。これは岐阜大学創立 70 周年記念プロジェクト「地×知のアーカイブ事業」として行われており、アーカイブ・コア設置はその一環とのことですが、先生がこのプロジェクトに取り組むようになった経緯を教えてください。

(須山) 元々は理学部の生物出身で専門は植物系統分類学です。縁あって教育学部で、理科の先生になりたい学生さんたちに生物の教科の専門を教えています。その一方で私は子どもの時から博物館というものが好きで、学生時代に学芸員の資格を取ったんですよ。

—以前、博物館にお勤めでしたね。

(須山) ええ、豊橋市自然史博物館で 7 年間、学芸員として勤務しました。岐阜大学で学芸員養成課程の授業を担当しているのもその延長線上のことで、植物系統分類学に加えて博物館学、そして理科教育学を、私の研究分野としています。

—教育学部には「郷土博物館」という施設があります。そこにある史料、古文書などが図書館のアーカイブ・コアに移ってくると聞いています。先生は郷土博物館でもお仕事をなさっているのですか？

(須山) はい。私は分野が自然史系で、うちの博物館は、現在はメインが考古とか歴史とか、要は人文系の博物館ではあるのですが、広く博物館であるということ、また、私が博物館運営の経験者であるということで、前任の先生から引き継ぐことになりました。

—郷土博物館とは、どんな施設でしょうか。

(須山) 教育学部の前身である岐阜県師範学校の時代、昭和の一桁の時から「郷土室」としてあったという、非常に由緒あるものです。現在の郷土博物館の展示は鍬や土器など考古がメインですが、当時の資料から「郷土室」の中身を探ってみると、動物・植物等の生物資料、岩石・化石等の地学資料なども扱っていました。ほかに産業、民俗に関連する資料も。そういった地元のことを幅広く多角的に知ることができる博物館だったんです。

—師範学校は加納地区から長良地区に移転し、その後、岐阜大学学芸学部、そして教育学部になりました。

(須山) 長良地区には「郷土博物館」として独立した 2 階建ての建物がありました。教育学部が現在の柳戸地区に移転した際に規模縮小され、教育学部棟 5 階、普通の教室の 1 区画を使って収蔵展示をしています。



岐阜大学は、2019 年 6 月 1 日に創立 70 周年を迎えます。



岐阜大学  
GIFU UNIVERSITY



### 再発見された加納藩士の甲冑

岐大祭の郷土博物館特別公開のため収蔵品を調査したところ、以前から保管されていた甲冑一式が幕末の加納藩士・小川権右衛門政暢の持ち物だったことが判明（子息により師範学校へ寄贈されたとみられます）。その後、収蔵品の中には江戸時代の貴重な衣装などもあることが分かりました。学術アーカイブズが整備されていく過程で更なる発見が期待されます。



—どうして郷土博物館の収蔵物が図書館を改修して移されることになったのでしょうか？

（須山）現在の場所だと温湿度管理や防虫の点でどうしても限界があるのです。また、せっかく所蔵している多くの資料もしまっぴなし。常設展示は入れ替えがなく、資料が活用されていない。それを私が問題だと思っていたところ、お付き合いするようになった他学部の先生方からも「実はウチ

の学部にも古くから置いてあって詳しくは分からないが重要そうな資料がある。捨てるわけにもいかないし」という話をお聞きするようになりました。全学的にそういう状況があるのだったら、大学のプロジェクトとして、そういったものを適正に扱って活用していけるような、場合によっては整理・取捨選択してベストな状態に持っていけるような、そんな仕組みができないか。そう考えて企画書にしまして。

—それが「岐阜大学学術アーカイブズ」になったというわけですね。

（須山）教育学部として平成 26 年度から郷土博物館整備のための予算要求はしていたのですが、全学的なアーカイブの話に発展したきっかけは平成 27 年度の岐阜シンポジウム「岐阜の自然・文化・芸術を発信する」です。そこで私は郷土博物館について発表を行いました。単に話すだけでは面白くないので、会場に郷土博物館の資料や植物標本庫の資料を持って行って、学生さん達と一緒に展示・実演をしました。学長と理事がそれに目を留められ、資料の状態や困っていることなどについて話を聞いて下さいました。そして、「郷土博物館の収蔵物は本学教員の研究資料というだけでなく、物によっては地域の方からの寄贈を受けている。郷土博物館は、いわば地域の貴重な資料の集積場でもあるのに、それがちょっとピンチであるというのは岐阜大学として非常に宜しくない。地域の文化・芸術の拠点としての役割を果たすためには、やはりちゃんとする必要があります」と仰って。その後平成 28 年度に全学的なアーカイブ事業として予算が認められ、平成 29 年度には正式に創立 70 周年記念事業として発足しました。

—「学術アーカイブズ」とは何でしょうか？

（須山）アーカイブというと、一般的に文書館、公文書館ですよ。でもその意味の広くは文書に限らず、要は保管する機能を持った場所という意味です。岐阜大学の学術アーカイブズでは、博物学的な資料、地域資料情報センターにある公文書、大学縁の芸術作品、応用生物科学部にある動物の剥製など生物系の資料、医学部で昔使われていた解剖図など、様々な資料を保管します。また、アーカイブズと複数形になっていますが、その意味するところは、我々が目指すのは 1 つの大きな博物館を作るのではなく、図書館のアーカイブ・コアを中心として各学部が、もともと持っている資料やスペースを有効活用してアーカイブの機能を分担して担いつつ、大学キャンパス全体で見ると有機的に機能する「キャンパスまるごとミュージアム構想」だということです。

—各学部にサテライトがあるということですね。

(須山) そうです。例えば、教育学部では、アーカイブ・サテライトの整備として、温湿度管理と防虫性に優れた植物標本庫を設置し、大学と地域が連携して行っている調査研究の証拠標本を郷土博物館の自然史資料として適切に管理するとともに、遺伝子資源を保存できる実験設備をととのえます。また、学部附属である郷土博物館の展示室を、従来の‘陳列型’から‘教育型’へ、一新します。地域科学部では、地域資料・情報センターが文書などを扱う人文系サテライトとしての役割を担います。

—コアとサテライトの違いは何でしょう？

(須山) ざっくり言えば、サテライトにある資料は、学部の先生たちが今も研究利用されているものです。日常的研究資料であり、授業で使っていたり。また、温湿度管理にさほど気を遣わなくてよく、学部の收藏状態に問題はないと判断されたものです。一方、コアの方には、特別なケアが必要と判断されたもの、あるいは今は学部では使われていないが大学全体の資料として適切に評価・管理すべきものが保管されます。コアには收藏室とオープン收藏庫が作られます。收藏庫には古文書や衣装・刀剣などの温湿度・防虫に特に手厚いケアが必要なものが保管されます。オープン收藏庫は希望があれば一般の方にも入っていただける所で、いわば見せる收藏庫。このようにコアでは保管と展示の両方を行います。

—図書館内にこのような施設ができることのメリットは何でしょう？

(須山) 大学内の学術的な場の中心である図書館に設置されることに意義があります。学内外の人たちが多く見に来てくれることでしょう。また、学生さんが来てくれるチャンスが断然大きい。アーカイブ・コアには展示コーナーも設けられます。ここでは岐阜大学や各学部の歴史・特色、現在いらっしゃる先生方の研究を紹介するための展示を行います。学生さんたちは意外と自分の大学のことを知らないようです。勉強や調べもののためにしょっちゅう来館する図書館でこのような展示を目にすることで、自分の大学に対する愛着やプライドが醸成されることを期待しています。

—今後の展望について教えてください。

(須山) 企画展、イベントなども計画されていますが、まず初心に立ち返って、持っている資料を適正に保管していくのが本来の博物館機能として大切で、ここは絶対に譲れないところです。それは資料を適正に扱えるスタッフがいないと成立しないことなので、専門的知識・技能を持った職員の確保、これが今後の課題です。県内博物館等との連携協力も重要になってくるでしょう。お互いをそれぞれの得意分野で補い合うような形での協力が期待できると思います。その上でどのように資料を活用していけるか。企画展、連携展もどんどんしていきたいです。また、学術アーカイブズの運営には各学部から選出される先生方に委員になって頂くことで、博物館的なものばかりではない色々な切り口の企画展などができるとおられます。あと、本学には教育学部と応用生物科学部が共同開講している学芸員養成課程がありますので、コアやサテライトをこの館園実習の場所として十分に機能させていきたいですね。—どうもありがとうございました。



收藏庫入り口の「Praeter」はラテン語で過去という意味。本学が蓄積してきた様々な学術資料が保管・展示されます。



展示棚の「Futurum」は未来という意味。岐阜大学を担う研究者が自ら情報発信する展示です。

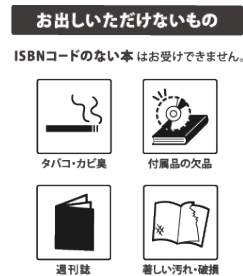
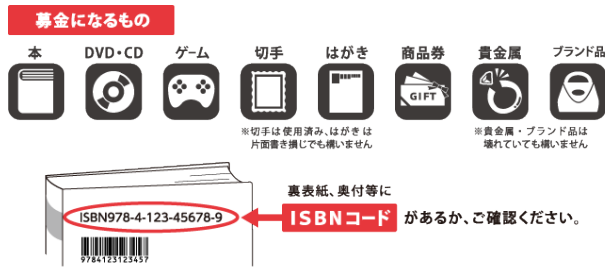
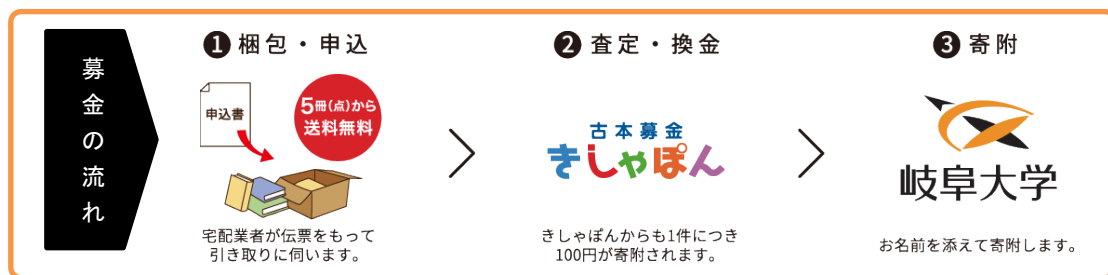
# //// お知らせ ////

平成 31 年 3 月から「岐阜大学 古本募金」を開始しました。

読み終えた  
本・DVDで  
募金ができます

古本募金とは、読み終えた本・DVD等を皆様からご提供いただき、その査定換金額を岐阜大学に寄附する仕組みです。寄附金は、図書館資料の整備に役立てられます。

申込受付から査定・報告、および送金は「古本募金きしゃぼん」（運営：嵯峨野株式会社）が担当します。古本募金 1 回のご参加につき、きしゃぼんからも 100 円が寄附されます。



お申込み・お問い合わせ

WEBで申し込む（受付）24時間・365日

岐阜大学 古本募金 [kishapon.com/gifu-u/](http://kishapon.com/gifu-u/)

電話で申し込む（受付）9時～18時・365日

オペレータに **団体ID 162** とお伝えください。 **0120-29-7000**

（運営協賛）古本募金きしゃぼん / 嵯峨野株式会社 〒358-0053 埼玉県入間市仏子 916 埼玉県公安委員会 古物商許可証第 431100028608 号

【タイトル「寸胴」について】

図書館エントランスホールにある陶壁画「寸胴譜」（作：久谷興子 1911-1998）は、陶器の原型「寸胴」を学生や若い研究者になぞらえ、社会への飛躍をイメージした作品で、図書館報のタイトルはそこから採っています。



岐阜大学図書館報「寸胴」第 60 号 2019 年 3 月 31 日

編集・発行 岐阜大学図書館（学術情報課）

〒501-1193 岐阜市柳戸 1 番 1 ☎058-293-2184